

# ベツツかい 議会だより

第 82 号  
2017  
8.1

「川を考える月間」の一環として  
各地で植樹イベントが行われた

第2回 定例会が開催される .....	2
定例会の総括と平成29年度補正予算の概要 議案・意見書の一覧と採決結果	
町政のここが聞きたい .....	7
一般質問（大内、中村、外山、小椋の4議員）	
委員会の活動報告 .....	12
議会のうごき .....	15

シリーズ まちの宝物 別海町「川を考える月間」中春別農協の植樹祭...18



北海道別海町議会

# 第2回定例会開催される

## 一般会計予算8200万円を承認

第2回定例会では、補正予算、工事請負契約、財産の取得、農業委員の任命などの審議を行いました。

今回の定例会では、町長からの行政報告の中で、「国民健康保険税軽減判定所得と後期高齢者医療保険料に誤りがあった」と報告がありました。

経緯としては昨年末、厚生労働省から後期高齢者医療制度の保険料徴収システムの不備が発表されました。

これに続き、今年1月に北海道から国民健康保険制度においても同様の誤りが無いか実態調査が行われ、当町においてもシステムの運用に誤りがあることが判明しました。

過去10年間あまりの算定額について過大徴収および過小徴収が発生しており、地方税法では5年間は遡って還付することが可能となっていますが、当町はこれに加え、独自に給付金という形で全ての過大徴収に対して還付を実施します。

なお、国保税の過大徴収していた額に還付加算金および利子「117万400

0円」を加算した「707万2000円」を今回の補正予算に計上しました。

その他、平成27年に農業委員会法が改正され、今年度から新たな農業委員会制度が始まり、農業委員の選出方法が、選挙制と市町村長の選任制の併用から「市町村長の任命制」に変更されました。

当町は広大な農地を有しているため、農業委員が推進委員も兼ねる形で定数がこれまでの24名から3名増の27名となりました。（5ページを参照）

さらに、今定例会において初の女性農業委員が任命され、また農業に従事されていない方も今回から農業委員として任命されました。

また、昨年から懸念とされていた、学校など公共施設のアスベスト対策について、今回の補正予算以降順次対策が行われていきます。



私立認定こども園設備整備事業

金額 1944万円

くるみ幼稚園の園舎外壁、屋根修理、サッシ取り替えなどを行います。



小学校校舎等改修事業

金額 130万円

排水容量が不足していた中春別小学校グラウンド横の排水溝などを整備します。



東公民館補修事業

金額 263万円

アスベスト対策として現在の煙突を塞ぎ新しい煙突を立てる補修工事です。

町有施設のアスベスト対策について

今回の補正で、アスベスト対策費を上して町有施設の改修を行います。アスベストを含んだ配管などの使用が判明した施設のうち、中央小学校は今回改修を行います。ほか、中央公民館、旧豊原小学校、し尿処理場については、今後、順次改修工事を実施します。また、アスベストを含んだ煙突の使用

が判明した、東公民館、旧保健センター（社会福祉協議会事務所）、し尿処理場についても、今回の補正で改修工事を行います。

現在、全国で特に公営住宅でアスベストを含む資材が使用されていたことが判明し、環境省では都道府県に早急に調査をするよう通達がなされています。

当町としては、今後も各施設の調査を実施し、安全対策を進めていくとのこと

平成29年度 第1回補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	8200万円	171億9500万円
国民健康保険特別会計	△2000万円	30億1000万円
下水道事業特別会計	△2040万円	6億6810万円

支出の部（主な補正）

日本ハムファイターズ市町村応援大使推進事業	205万円増額
標津線代替輸送路線バス停留所管理経費	45万円増額
私立認定こども園設備整備事業	1944万円増額
中春別保育園運営費	84万円増額
し尿処理場維持補修事業	962万円増額
酪農工場整備事業	131万円増額
漁港機能増進事業	3732万円増額
コミュニティーセンター管理経費	111万円増額
教育指導経費	25万円増額
小学校校舎等改修事業	130万円増額
東公民館補修事業	263万円増額
畜産クラスター事業	2億円増額
社会資本整備道路交付金事業	2億1390万円減額

国保税など算定システムの運用誤りについて

国保税など算定システムの運用ミスで、国民健康保険税を誤まって徴収していたことがわかりました。

2007年から2016年までの10年間、93件で589万7100円を過大徴収、また2014年から2016年度の3年間、5件で21万1900円の過小徴収もありました。

後期高齢者医療保険料についても、16件で50万7500円の過大徴収と、4件で6万1900円の過小徴収が見つかりました。

それぞれ、国の算定システムの不備と町の徴税システムの運用ミスが原因となる誤りでした。

後期高齢者医療保険料は、5月中に還付を行い、追加徴収も6月中に完了しています。国民健康保険税については、今後できるだけ早く還付および追加徴収を行う予定とのことです。

町の税務課は、今後算定方法を熟知し、誤りが出ないように徹底することとしています。

町民に対し、心配をおかけして大変申し訳ないと陳謝しました。

意見書

◆矢日別演習場でのオスプレイ訓練を行わないことを求める意見書  
(賛成2名・反対13名)

提出者 中村 忠士 議員(他1名)

8月予定の日米共同演習にオスプレイの参加を検討との報道がされました。酪農・住民に多大な影響をおよぼすオスプレイ訓練は行わないよう強く求めます。

反対 森本一夫議員、小林敏之議員

オスプレイの使用に関し、当町への打診が正式にない中、使用を前提とする推測のみで議論を行うことは、議会としてはあってはならないことだと考えます。また町も、現地視察も視野に入れた情報収集と分析を行う、と先日の一般質問答弁の中で回答しています。現在の状況で一方的な反対の意見は、町の将来に資する判断とはいえません。よって本意見書に反対します。

賛成

瀧川 榮子 議員

試作機の段階から5年間で58件の事故があったと米軍が公開しています。事故に対

する住民の不安は大きく、自然環境と産業を守るためにも本意見書に賛成します。

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書  
(賛成13名・反対2名)

提出者 佐藤 初雄 議員(他4名)

国土を支える要となる森林の整備に関し、国と道はさまざま取り組みを進めてきました。現在、国では市町村主体の「森林環境税(仮称)」の創設に向けた検討を進めています。施策の充実・強化を強く要望します。

反対

中村 忠士 議員

意見書案は「森林環境税の導入を急ぐべきだ」としており、国民への税負担増を迫っています。まずは、汚染物質の排出事業者責任を明確にした環境対策税を整備し、それを林業・木材産業の振興に用いるべきと考え、反対します。

賛成

西原 浩 議員

国と都道府県、市町村が連携を取り、森林整備を進めることが重要です。森林環境税の導入が、豊かな森林を健全な姿で次の世代に引き継ぐために役立つものと期待し本意見書に賛成します。

工事請負契約の締結および財産の取得

種別	内 容	契約金額	事 業 者	備 考
工事	町民体育館外部改修工事	216,432千円	近藤・三共経常建設共同企業体	平成29年6月27日～12月20日
工事	上風連小学校校舎・屋内体育館改修建築主体工事	62,532千円	株式会社 三共工務店	平成29年6月27日～12月20日
工事	西春別駅前団地公営住宅改修建築工事(3号棟)	52,812千円	株式会社 佐々木建設工業	平成29年6月27日～12月20日
工事	西和地区農道改良舗装工事(H28線)	64,800千円	株式会社 別海	平成29年6月27日～10月30日
財産	小型動力ポンプ付水槽車(無線機既存)	32,572千円	株式会社 北海道モリタ	第7分団西春別駅前で使用
財産	小型動力ポンプ付水槽車(無線機新品)	32,594千円	株式会社 北海道モリタ	第3分団尾岱沼で使用
財産	小型動力ポンプ付積載車	14,904千円	株式会社 北海道モリタ	第1分団中西別班で使用
財産	小型動力ポンプ付積載車	14,904千円	株式会社 北海道モリタ	第1分団上風連班で使用

## 定例会の議案審議と内容

### ■別海町農業委員会委員一覧

氏名	地区	性別	年齢	職業
山田 良雄	別海	男	61	酪農業
信夫 重勝	本別	男	53	酪農業
内藤 宏幸	尾岱沼	男	55	酪農業
小野 榮一	中春別	男	62	酪農業
押田 賢二	別海	男	44	酪農業
芳賀 均	豊原	男	55	酪農業
阿部 浩	別海	男	49	酪農業
大内 敏光	西春別	男	58	酪農業
加藤 真純	美原	男	57	酪農業
畠山 友子	美原	女	53	酪農業
羽石 健一	上春別	男	48	酪農業
五ノ井勝徳	上春別	男	59	酪農業
小杉 良夫	泉川	男	65	酪農業
望月 英彦	豊原	男	58	酪農業
齊藤 主夫	奥行	男	53	酪農業
木幡 誠	泉川	男	64	酪農業
浦山 宏一	上春別	男	56	酪農業
及川 哲夫	西春別駅前	男	64	酪農業
林 武雄	中西別	男	60	酪農業
石毛 剛	大成	男	55	酪農業
藤井 実	中西別	男	63	酪農業
太田 公一	中西別	男	53	酪農業
市川 義晴	西春別	男	64	酪農業
小島 敏	上風連	男	59	酪農業
會田 勝規	西春別	男	62	酪農業
加藤 和広	上春別	男	63	酪農業
山崎 茂	別海	男	60	無職

◆海洋ごみの処理等の推進を求める  
意見書  
(全会一致で可決)

提出者 沓澤 昌廣 議員(他4名)

海洋ごみは、国内外を問わず多様な地域由来のものが混在しているため、市町村が単独で発生抑制の対策を行っても問題解決につながりません。特に海洋ごみの7割は河川に由来しています。

海洋ごみの処理の推進ならびに発生抑制に向けて取り組むよう、国に強く要望します。

各委員会の構成が変更  
となりました

5月8日の第2回臨時議会において、常任委員会構成が新しくなりました。

・議会運営委員長 西原 浩議員  
・総務文教常任委員長 小林 敏之議員  
・福祉医療常任委員長 戸田 憲悦議員  
・産業建設常任委員長 沓澤 昌廣議員  
・広報広聴常任委員長 今西 和雄議員  
がそれぞれ委員長として選出されました。  
今後2年間、町民の負託に応えるため一層努力していきます。

# 議会 報告会

例年実施している  
報告会を今年も開催します。  
皆さんぜひ来てくださいね。

別海町公認キャラクター  
別海りょうしくん



## 11月に開催予定 各地域で開催

開催日時や会場などの詳細な  
お知らせは11月1日発行の  
議会だよりに掲載いたします。

第2回定例会（6月20日～23日）

討論が行われた議案の採決結果	小 原 哲 也	外 山 浩 司	大 内 省 吾	木 嶋 悦 寛	松 壽 孝 雄	森 本 一 夫	今 西 和 雄	西 原 浩	沓 澤 昌 廣	小 林 敏 之	瀧 川 榮 子	戸 田 憲 悦	中 村 忠 士	渡 邊 政 吉	佐 藤 初 雄	松 原 政 勝	採 決 結 果
矢臼別演習場でのオスプレイ訓練を行わないことを求める意見書	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	※	否
林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	※	可

○原案賛成 ●原案反対 ※議長は可否同数の場合に決裁権があります

議案番号	件名
議案第45号	平成29年度別海町一般会計補正予算（第1号）
議案第46号	平成29年度別海町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
議案第47号	平成29年度別海町下水道事業特別会計補正予算（第1号）
議案第48号	別海町町税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第49号	別海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第50号	別海町地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第51号	工事請負契約の締結について（町民体育館外部改修工事）
議案第52号	工事請負契約の締結について（上風連小学校校舎・屋内体育館改修建築主体工事）
議案第53号	工事請負契約の締結について（西春別駅前団地公営住宅改修建築工事（3号棟））
議案第54号	工事請負契約の締結について（（H28線）西和地区農道改良舗装工事）
議案第55～56号	財産の取得について（小型動力ポンプ付水槽車）
議案第57～58号	財産の取得について（小型動力ポンプ付積載車）
議案第59号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について
同意第3～29号	別海町農業委員会委員の任命について
報告第1号	専決処分の報告について
報告第2号	平成28年度別海町一般会計繰越明許費繰越計算書について
報告第3号	平成28年度別海町水道事業会計予算の繰越について
発議第2号	矢臼別演習場でのオスプレイ訓練を行わないことを求める意見書
発議第3号	林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書
発議第4号	海洋ごみの処理等の推進を求める意見書

以上、発議第2号・発議第3号を除き、全会一致で可決しました。

# 第2回定例会 一般質問

## 町政のここが聞きたい

第2回定例会では2日目（6月21日）に4議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）

- 大内 省吾 議員……………8
  - 1 日米共同訓練でのオスプレイ参加報道などについて
  - 2 町の表彰規定と町民の葬儀について
  
- 中村 忠士 議員……………9
  - 1 オスプレイ訓練に対する基本姿勢は
  - 2 「入学準備金」早期支給に関する考えは
  - 3 学校図書館の充実に関する施策、計画は
  
- 外山 浩司 議員……………10
  - 1 別海高等学校への支援内容の周知方法について
  - 2 コミュニティ・スクールについて
  
- 小椋 哲也 議員……………11
  - 1 酪農担い手対策の基本的な方向性は

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

別海町議会

検索

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。



大内省吾議員

## 日米共同訓練での オスプレイ参加報道について

### 町長 オスプレイに関しては 出来るだけ情報収集をする

**質問** 8月に予定されている日米共同

訓練で、米海兵隊の新型輸送機「MV2  
2オスプレイ」を6機前後使った訓練が  
矢臼別演習場で予定されているなどの報  
道が掲載された。

また、陸上自衛隊がオスプレイ17機を  
導入する予定と公表している。

日本周辺を取り巻く国際情勢を考える  
と、防衛省として、国防のためさまざま  
な訓練が必要なのは理解できる。

さらに防衛省は即応性が求められる災  
害派遣も考慮しオスプレイを導入すると  
思われるが、だとするといずれ近い内、  
この地をオスプレイが飛ぶと考えられる。  
多くの町民は、以前起きた米海兵隊に  
よる誤射のこともあり、事故が多いオス  
プレイ参加報道を大変心配している。

また、北海道防衛局については、少な  
からず迷惑を被り我慢している演習場周  
辺の住民や、町民の気持ちを理解し、もっ  
と積極的により寄り添い・支える努

力をするべきと考える。

現在までに町に北海道防衛局から何ら  
かの説明や連絡、打診などはあったのか。

**曾根町長** オスプレイを使用した日米

共同訓練を実施することは防衛省から発  
表されている。

またオスプレイの情報などについては、  
北海道防衛局から逐次提供があり、説明を  
受けてはいるが、訓練に来るかの詳細につ  
いては、現在確認中である。

**質問** 沖縄で事故が頻発している機体

なので、早い内に一度町長を先頭に町の  
関係者が沖縄に向き、オスプレイの視  
察や事故の詳細について調査し、危険性、  
安全性を分析し、その結果を議会や町民  
に報告すべきではないか。

**曾根町長** 沖縄におけるオスプレイの

状況調査などについては米軍関係者や沖

縄防衛局との調整が必要と考える。

**質問** もし町長が沖縄に行く機会があっ

たら、できるならば自ら先頭に立って体験  
飛行され、その結果も報告されたらどうか。

**曾根町長** 自ら進んで行動したいと考

える。体験飛行も出来るのであれば、ま  
ずは先頭に立って積極的に取り組みたい。

### 町の表彰規定と町民の葬儀について

**質問** 現在の町の規定では、90歳での

表彰規定はあるが、例えば89歳で亡くな  
ると長寿賞に該当しない。

また町民の葬儀の際、弔旗がないなど  
町の顔が全く見えない葬儀も随分ある。

現在の別海町があるのも、何代にもわた  
り後継者にバトンを託し、地域発展のため  
さまざまな社会貢献をしてきていただいた  
上にある。

感謝の意を込め、町として80歳前後で  
もう一つ表彰規定を作ってはどうか。

**佐藤副町長** 現在の弔意の表し方が町

にとってふさわしいものになっているか、  
近隣自治体の状況も参考に検討したい。





中村忠士議員

## オスプレイ訓練に対する 基本姿勢は

### 町長 町民生活に影響する 訓練はしないよう求めていく

**質問** オスプレイは重大な事故を繰り返し、多くの犠牲者を出してきた。オスプレイの訓練が矢臼別演習場で行われる可能性があり、町民の不安は高まっている。

町長は、町内の平和団体の要請に、「基幹産業や町民生活に影響を与える恐れがある訓練を実施しないよう求めている」と回答した。基本姿勢に変わりはないか。

**曾根町長** 基本姿勢に変わりはない。オスプレイに限らず、情報公開に努め、基幹産業や町民生活に影響を与える恐れがある訓練を実施しないよう、機会あるごとに強く求めている。

**質問** オスプレイがどういった訓練や運用がなされ、どういった事故を起こしているかなど、情報の収集はしているか。

**曾根町長** モロッコでの墜落事故や沖縄での事故など、情報について把握している。

**質問** 町長は「訓練の態様などを十分に確認し適切に対応していく」と回答している。十分な確認が取れない場合、訓練の容認はしないという理解でいいか。

**曾根町長** 「十分な確認」とは、防衛省からの情報だけでなく、飛行ルートや騒音など、他の演習場で行われた訓練の様子や影響について、地元自治体首長の声を聴き、判断材料にしていくという意味だ。

**「入学準備金」早期支給に関する考えは**  
**質問** 3月議会で「入学準備金」の早期支給について聞いたが「調べ、研究する」という答弁であった。  
早期支給を実施すべきと考えるが。

**中谷教育部長** 道教委から通知が来ている。それを踏まえて、今後検討していく。

学校図書館の充実に関する施策、計画は

**質問** 当町の小学校の図書充足率は71・3%、中学校は82・8%だが、低い学校では50%を割り込んでいる状況がある。今後、どのように学校図書を充実させていくか。

**伊藤教育部長** 現在策定を進めている「子ども図書活動推進計画」により、子どもたちのより良い読書環境を整えていけたらと考えている。

一方で、児童生徒が正しい情報に触れられるよう、古い図書の適切な廃棄、更新に努めていく。



より良い読書環境の整備が望まれる学校図書室



外山浩司議員

## 別海高等学校への 支援内容の周知方法について

中谷教育部長  
広報べつつかい、今年のしごとへの掲載および  
町内会長会議での資料配付などを実施

**質問** 通学費助成以外の支援を知らない中学生や保護者が多くいるようである。今までの周知方法については。

**中谷教育部長** 広報べつつかい、今年のしごとへの掲載および町内会長会議での資料配付などを行っている。

高校では、生徒募集用ポスターおよびPTA通信「緑風」への掲載とともに、入学案内時に各中学校への説明を行っている。

**質問** 支援内容が、進路指導の先生方にまで浸透していないようである。校長会などでの指導については。

**中谷教育部長** 校長会、教頭会で支援策について説明をしている。改めて校長会で周知の徹底を図っていく。

**質問** 支援とあわせて、卒業後の進路状況、地域や小中学校との交流など別海

高校の良さを町民に広く伝えていくことも必要とも考える。教育委員会の考えは。

**中谷教育部長** 高校の魅力を発信していくことは重要である。教育振興会や学校運営協議会とも協力をして、活動を後押しするよう情報発信に努めていく。

**質問** 別海高等学校の目指す姿について、教育長の考えは。

**伊藤教育長** 卒業式での生徒の態度が、たいへん落ちついていた。落ちついた雰囲気の中で学習できる環境を持っている。このことも良さではないか。この良さを大切にし、町内外にもアピールしていきたい。

## 「コミュニティ・スクールについて

**質問** 試行を実施している上春別学区の現状や問題点は。

**伊藤教育長** これまで、具体的な問題点はなく活動が進められている。今年度は主催事業として、保小中合同の避難訓練の実施、他の地区との情報交流を重点的な活動として位置づけ、来年度の本格的な導入に向けて取り組んでいる。

**質問** コミュニティ・スクール推進委員の研修の機会などについては。

**中谷教育部長** 北海道教育委員会などが主催する研修会への参加や先進地視察を計画している。

**質問** 予算についてはどのようなになっているか。

**中谷教育部長** 別海型コミュニティ・スクール導入推進事業の中で、予算措置を行っている。



上春別地区で配布された啓蒙ポスター



小椋哲也議員

酪農担い手対策の  
基本的な方向性について

町長 担い手希望者の  
掘り起こし活動に力を入れる

**質問** 現在、担い手対策の中核となっている「別海地域担い手育成総合支援協議会」の具体的な取り組みは。

**登藤産業振興部長** 一昨年から町や農協などで構成し、都市部で開催される「新・農業人フェア」など就農相談会への出席、首都圏の大学や専門学校などを訪問し、新たな人材発掘に力をいれている。

**質問** 農協単位で独自の特色を生かした研修施設を整備するなど、受け入れ側の多様化も進んでいるが、窓口が細分化してしまうと無用な混乱を招く。対外的活動の窓口の一本化が必要と考えるが。

**登藤産業振興部長** 現在、町営の研修牧場に関しては協議会に窓口が一本化されているが、ヘルパーや農家雇用などに関しては個別対応をしている。

関係機関と一本化に向けた協議が必要であると認識している。

**質問** 実際に担い手希望者が、新規就農を決意するということは、非常に大きな人生の決断であり容易なことではない。それを乗り越えるには、組織対個人だけではなく、人と人の繋がりを重視した、5年10年と関わる世話人のような存在が重要と考えるが。

**登藤産業振興部長** 長期間対応できる人材が必要であるというのは同じ認識であり、今後、確保ができるよう努める。また、これらの取り組みは町内横断的な体制が必要であり、町はそのまとめ役として役割を果たしたいと考えている。

**質問** 酪農産業を支える担い手を育むという共通の目標に向けて、曾根町長には旗振り役として強力なリーダーシップ

を発揮していただきたいが。

**曾根町長** 職員時代に研修牧場の立ち上げも担当しており、担い手対策の重要性と横断的な取り組みの難しさについては過去の経緯も含めて十分に理解している。その上で、今、地域全体として担い手対策の連携が必要だと考えている。

民間団体に独自にそういう組織を立ち上げる動きも情報として入っている。

まずは、潜在的な担い手の希望者を掘り起こす活動に力を入れ、その希望者が最適な選択を行えるよう取り組みを進めていく。



東京で開催された農業人フェアで担い手希望者の相談を受ける

## 総務文教常任委員会

担当所管 総務部・教育委員会など

委員長	小林 敏之
副委員長	森本 一夫
委員	西原 浩
委員	松壽 孝雄
委員	小椋 哲也

委員会の構成替えが行われ新たな体制となりました。委員一丸となり諸問題に取り組んでまいりますので今後ともよろしくお願ひします。

6月7日に所管事務調査を実施しましたので概要を報告いたします。

### (仮称)生涯学習センターについて

矢臼別演習場周辺まちづくり構想に基づいて、本年度は実施計画の策定が行われます。住民懇話会など皆様のお声をいただく機会もありますのでご協力をお願ひします。

### 第7次別海町総合計画について

平成31年度にスタートする第7次別海町総合計画ですが、平成29年度と30年度の2カ年計画で策定作業が開始され、本年度は策定体制の決定と計画策定に関する基礎資料の整備などが行われます。

### 地域テレワーク事業について

旧光進小中学校を活用した本事業は「ほらり協議会」を中心に、滞在型テレワークの実施や、WEBサイトの充実など地域のプロモーション活動に力をいれています。本年度は8月に酪農学園大学の研究室がテレワークを実施する予定となります。

### 本別海地域防災センター津波荷重耐力評価の結果について

最大津波予測の変更に伴い、津波荷重耐力について調査を実施しました。結果、想定される最大5m以上の津波が発生した場合、水圧により施設の一部に破損が生じることが判明しました。国では新たに太平洋沿岸の地震想定を行っており、北海道はこの結果をもとに平成30年度に新たな津波浸水予測を示す予定です。町としてはこの予測をもと

にした改修計画を検討することです。改修までの間は、最大クラスの津波が発生した場合の対応について、地域住民と協議を行うこととしております。

### 加賀家文書館の現地調査について

加賀家文書館を視察しながら業務担当者より説明を受けました。

平成12年に開館した当施設には、総資料1115点、古文書資料706点、民具資料409点が所蔵されています。

別海町の歴史を肌で感じ学びのきっかけとする重要な施設であると認識しましたが、町内小中学校の学習カリキュラムにはほとんど組み込まれていない状況です。今後、当委員会でもより有効に教育に生かすための検討を実施していきます。



加賀家文書館で野付半島の歴史について説明を受ける

# 常任委員会の活動報告

## 福祉医療常任委員会

担当所管 福祉部・別海病院など

委員長	戸田 憲悦
副委員長	今西 和雄
委員	中村 忠士
委員	木嶋 悦寛
委員	大内 省吾

平成27年度に国から新たなガイドラインが示され、地域病院として心のこもった医療で町民の皆さんの健康を支援する事を基本理念とした、町立別海病院新改革プランが策定されました。

その中では、将来に向かっての安定的な自立型経営や良質な医療の提供を目指しています。

計画期間は平成29年から32年までの4年間、基本的な考えとしては病床数84床、標榜科目10科とし、医師・看護師・助産師・技師・事務職員を合わせ141名の職員体制を目標としています。

地域医療構想を踏まえた別海病院の果たす役割については、地域人口の高齢化率の上昇を考慮し複数の診療科目に加え、高度医療機器なども有し、入院体制の充実、医師・医療技術者の安定的体制の維持を行なうものです。

一次医療・救急医療の一次対応、「内科・外科・小児科・産婦人科」の入院4科を中心とした継続的医療の提供と効率的病

院運営を目指します。

平成28年12月に策定された「北海道保健医療計画根拠地区地域医療構想」では、2025年予定の必要病床数は、現在の534床から497床と推計されています。

高齢化が進み医療サービスの需要が増



地域医療の要となる町立別海病院

大して行く中で、外来診療科や病床制限にいたることのないよう、地域患者のニーズに配慮した病院運営を目指し、「地域関係機関や施設との連携」、「地域包括ケアシステムの構築」などに対応する医療体制の維持が求められます。

また、町立別海病院の運営は独立採算を原則としていますが、一般医療科目と救急体制や高度医療の充実を図り公立病院としての役割を果たすため、地方公営企業繰り出し基準を設けています。

その制度により、医師給与に対する一般会計からの繰り出しが認められています。

特に医師不足に対する状況の中で医師確保のため、医科大学との連携事業経費についても協議の上で繰り出ししています。

病院運営収支計画においては、今後4年間の医療機能等指標に係る数値目標は、救急分娩高度医療確保を目標として、平成32年度までに「分娩件数70件・手術件数330件・救急患者数325件」に設定し、基本理念を礎に町民に理解していただくための取り組みを行う予定です。

## 産業建設常任委員会

担当所管 産業振興部・建設水道部など

委員長	杏澤 昌廣
副委員長	渡邊 政吉
委員	佐藤 初雄
委員	瀧川 榮子
委員	外山 浩司

### 農業に関する

当町の産業は、酪農と漁業が中心的な産業であります。今年の4月1日には、畜産環境条例が3年の猶予期間を終了し本格施行となりました。農業と漁業が共に発展していくことは、町としての願いであります。

今年も6月下旬から牧草作業が本格的に始まりました。別海町の牧草地面積は約63000haです。

そのうち、毎年約2500haの草地更新を行なっていますが、10年毎の更新頻度と考えると、達成率は40%程度にとどまっています。

行政と農協が中心となり対策を検討することが大切です。

### ふるさと交流館の現状

ふるさと交流館は、町民のご協力をいただき浴槽などの大規模な修理が終了し

ました。

しかし、源泉に砂が混じる問題が発生しており、従来の地下500m付近から約60m引き上げた地点でお湯を汲みあげています。

砂が混じるとくみ上げポンプの故障につながり、湯量も減るため湯を張るのに時間がかかっています。

新たにボーリングをする場合、目安の800m掘るのに多額の費用がかかる見込みです。

泉質も定かでないために判断が難しい状況です。引き続き調査に取り組んでいきます。

### 離農者と新規就農者

当町の酪農家は、毎年20戸ほどの離農者があり現在の酪農家数は、678戸です。研修牧場で酪農家を育成することは必須の課題ですが、今年度は0戸、来年度は3戸が新規就農の予定です。

中春別農協でも今年より農協独自で研修制度を立ち上げて新規就農に努めていますが、毎年20戸あまりの離農を補うには程遠いものがあります。

また、畜産クラスター事業は、昨年より始まり、今年度は25戸の事業になります。アメリカのトランプ政権によってTPPは、今すぐの影響はないものの、EUとの貿易交渉が進んでいます。

畜産クラスター事業は、大型化によって酪農家の減少をおぎなうことと貿易の対策を兼ねております。

大型化と後継者対策は、当町の重要な課題です。引き続き調査・研究に取り組んでいきます。



新たな産業建設常任委員会のメンバー

## 択捉島へのビザなし 交流に参加して

択捉島(6月8日～11日)

今年のビザなし交流第2陣は参加者61名。日程は6月8日から11日の4日間。

初日、根室沖で天候回復を待ち、1日遅れの9日に出航。択捉島には翌10日に上陸となりました。

私たち一行は文化会館でベラウソフ・タチャーナ・クリル地区長や地元住民から歓迎を受けました。

文化交流では、日本側主催のダンス講習会が行われ、ロシア側から少年少女に



夕食交流会、ダンスコンサートでの楽しいひととき

よる民族舞踊が披露されました。

住民との交流会では、地元中等学校10年生の女生徒が、日本の歴史やアイヌ文化を知りたいと話し、日本への関心の高さを知りました。

また、80歳の男性は漁業資源が減少しているので、日本の養殖技術の支援を望んでいると話しました。

その後、ホームビジット先の別飛村(べつとぶむら)の企業家宅を訪問。インフラ整備も進み2年前から見ると住みやすくなったことや、領土問題は交流とは別である、などの話が出ました。

夕食会ではダンスを楽しみ「故郷」を全員で歌い、さらに交流を深めました。

今後も住民交流や共同経済活動を通して、良好な日ロ関係を望んでいます。

また、返還運動の広報活動を積極的にやりたいと思います。(松壽孝雄議員)

## 相手を理解する日ロが 交流の第一歩

国後島訪問(5月19日～22日)

国後島越しに見える真っ白に雪を頂いた知床の山々。

北海道からよりも島の近さを感じる景色に一瞬息をのみました。

今年度第1回の訪問交流事業はホーム

ビジットや意見交換会による住民との交流、学校や幼稚園、文化センター、先ごろオープンしたスポーツ施設などの視察が行われました。

特に印象に残ったのは地区図書館で取り組まれている「ロクニクラブ」です。

ロはロシア、クは国後、ニは日本の頭文字をとったもので、日本の文化や習慣を学ぶ機会を提供し、文化的な交流を目指す団体です。

しかもビザなし交流が始まる以前から日本との交流を担ってきた団体で、これまでに60回の日本文化に関する特別展、62回の日本語講座を開催してきました。

国後島に住むロシア人は、日本の文化、風習、歴史に大変興味を持っています。

しかし私たちは隣人であることは意識してきましたが、相手を理解する努力が足りなかったのではないかと感じました。

信頼関係は一朝一夕に作られるものではありません。今後、共同経済活動を進めるに当たっても、地道な信頼関係づくりが重要であると考えさせられる訪問となりました。(木嶋悦寛議員)

## 全国町村議会議長、副議長研修会に参加

東京（5月31日）

全国から約1700人が参加し東京で研修会が開かれました。

「大震災における自治体と議会の使命」の講演では、災害時、生命や財産を守るために、平時の住民と自治体、議会での議論や予行訓練の実施が重要です。

国や道に対し提言できる活動を進めることが大切だと話されました。

全国、町村議会特別表彰は浦幌町議会と京都精華町議会が受賞しました。

浦幌町からは、「マネジメントサイクルと議員の担い手不足の検証」の報告がありました。

議会活性化を進め、議会の監視機能の強化や、政策提言など細分化して検討を進めているようです。

また、議員選挙で定数割れとなったことから、住民の意見を聞く必要性があると判断。アンケートを実施し精査の結果、住民との接点を増やし声を聴くために、意見交換会を開くなどの取り組みにつながっているという報告がありました。

京都精華町議会は「議会活性化の取り組みと期待される議会の姿」の報告でし

た。議会基本条例制定、全会議の公開など、開かれた議会をめざす取り組みが報告されました。

「議長、副議長のあり方」のテーマでは、地方政治のリーダーとして、次世代の議員候補者の養成など、多方面にわたる活動の重要性が語られました。

今回の研修で得たことを今後の議会活動に活かしてまいります。

（佐藤初雄議員）

## 東京ふるさと会

東京（4月15日）

東京のホテルメトロポリタンで、東京・別海ふるさと会の定期総会が開催されました。

別海からも20名を超える出席者があり、友好ふるさと会や友好企業の皆さまも加え、総勢100名以上と盛大な会となりました。

新家鶴男会長の挨拶にはじまり、曾根興三町長からも挨拶をいただきました。

その後、名誉会員である作曲家の小六禮次郎さん、歌手で女優の倍賞千恵子さんおふたりのデュエットなども披露され、大変に和やかな進行に出席者の笑顔は絶



別海町議会を代表して挨拶を行う佐藤副議長

えることがありませんでした。

東京・別海ふるさと会は、根室管内の各ふるさと会とも連携を持ちながら、首都圏で開催されるさまざまなイベントへの積極的な参加および協力を行い、別海と根室管内のPRに力を入れています。

今後も別海町にゆかりのある多くの人たちの参加により、交流をさらに深め、別海町の応援隊として、ふるさと会がますます発展していくことが望まれます。

（小椋哲也議員）



## 議会モニター員が 委嘱されました

議会モニター制度は、町民からの要望や提言を広く取り入れ、議会の運営がより活発となることを目的としています。本年度のモニター員は以下となります。

小湊 保 中春別農協代表理事組合長  
 福原 正純 別海漁協代表理事組合長  
 橋本 淳一 別海町商工会会長  
 山口 長伸 別海連合町内会会長  
 臼田 誠治 尾代沼連合町内会会長  
 郷 季良 西春別駅前連合町内会副会長  
 青野 芳樹 豊原在住（公募）  
 大畑紀美子 上春別在住（公募）



5月29日、議会モニター員に委嘱状が手渡されました

## 議会傍聴インタビュー

最終日に傍聴された議会モニターの方にお話を伺いました。

【お話を伺った方々】

大畑紀美子さん 郷季良さん 山口長伸さん



大畑 紀美子さん 郷 季良さん 山口 長伸さん

**広報**…議会を傍聴された感想は？

**山口**…報道を見ると他市町では一般質問者が多く、別海町の4名は寂しいというのが率直な感想です。また時間を繰り上げて議会が開会されることがあるのは、傍聴者にとっては都合が悪いです。

**大畑**…農業委員は先日一人ひとり審議し、最終日にまた1議案ずつの議決を行い大変時間がかかっていました。簡略化できないのだろうかと思いました。

**佐藤副議長**…人事案件であり、手続き上この形がとられています。

**郷**…初めて傍聴しました。議会モニターは8名おられますが3名の参加でした。モニターをもっと増やすなど、たくさんの人

に見てもらえる議会にできないでしょうか。真剣な議論が勉強になりもったいないと思いました。

**広報**…議会だよりを読んだ感想は？

**郷**…毎回読んでいます。大変わかりやすいです。

**大畑**…毎回傍聴しているので、その時の情景を思い浮かべながら読んでいます。

**山口**…「議会だより」は全国銀賞と道議会議長の賞を受けたのだから自信を持ってください。功績をたたえる時は議員がスタンディングオベーションするくらいの情熱で、もっと感動の議会を作ってください。

## JA中春別植樹祭「将来のためにできること」

なかしゆんべつ えいのうしんこうか やました ゆうき  
JA中春別 営農振興課 山下 裕貴さん



JA中春別では毎年、植樹祭を実施しており、今年は6月1日(木)に富岡地区において開催いたしました。(今回で6回目、累計4500本)

当地域は主要3河川に囲まれており、環境に配慮した資源循環型酪農の推進や消費者に理解される活動が重要であることから、平成24年に「中春別地域河川流域環境保全推進委員会」を設立し、環境保全の推進に努めています。

昨年までは、床丹川流域の美原地区に3年間かけて植樹を行なっていました。今年からは場所を変更して、当幌川流域のJA所有地に、今後数年をかけて植樹する計画です。今年はいヌエンジン(110本)、ドロノキ(110本)、ヤチダモ(110本)、ケヤマハンノキ(100本)、ミズナラ(110本)、ヤナギ(100本)、シラカバ(110本)の7種類計750本の植樹をしました。

当日は曇り空でしたが、酪農家をはじめ別海町、野付漁業協同組合、根室振興局、釧路開発建設部、別海町森林組合など多数の関係機関より参加いただきました。今年は約100人の参加者が750本の苗木(ナラ・エンジン他)をスコップ片手に協力しながら1本1本丁寧に植樹しました。

苗木から数十年後、美しく豊かな森へとなることを願い、標柱杭を立て植樹祭は終了いたしました。今後JAとして中春別地域河川流域環境保全推進委員会を中心に、環境に配慮した資源循環型酪農の推進を行う計画でありますので、皆様のご協力をこれからもお願いいたします。

## 編集後記

本州と変わらない猛暑が続き、人はもちろん放牧中の牛たちも木陰を求め暑さをしのいでいます。

年に4回発行している議会だよりは、今号で第82号を迎え、発行以来20年を経過しました。

定例会の内容を中心に議会のうごきを詳しくお伝えしていますが、諸先輩たちが作り上げてきたことを土台に、より分かりやすく、より親しみを持って読んただける紙面づくりを目指しています。

委員構成も変わりましたが、これからの2年間、さらに研鑽を積み、より良い議会だよりを皆様にお届けします。

喜ばしいことにこの1年は、全国、全道の議会だよりコンクールで高い評価をいただき表彰されました。委員一同、大きな励みとしています。町民の皆さまの声も大切に受け止めていきます。

今後とも、ご意見ご要望をお気軽に寄せていただければ幸いです。

この議会だよりが皆様の手元に届く頃には、秋の気配も感じられる時期に入っていると思います。

残り少ない夏を楽しんで過ごしてください。(今西和雄委員長)

飲んだら乗るな、乗らせるな、地域の力で飲酒運転撲滅を!!